



東京女子医科大学雑誌

JOURNAL OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY

■総説

移植と最先端医療

移植 (1) 肝臓 成人生体肝移植：術式の変遷と

血液型不適合移植の進歩……………尾形 哲・江川裕人・山本雅一… 1- 8

■原著

両側の血腫除去術を要した頭部外傷8症例の臨床的検討 …大淵英徳・

萩原信司・菊池麻美・高橋祐一・吉村知香・

横佐古卓・新井直幸・黒井康博・広田健吾・

笹原 篤・谷 茂・糟谷英俊… 9- 12

Gender Gap in Academic Medicine: Analysis of a Governmental Nationwide

Survey on Private Universities and Data of a Single Medical University

(医学界における性差：文部科学省による私立大学の全国調査と

一私立医科大学のデータ分析) ……富澤康子・宮崎 悟・

石塚尚子・上野敦子・上塚芳郎… 13- 20

■報告

多発性骨髄腫の治療に用いたボルテゾミブが帯状疱疹の再燃に

関与したと考えられる症例……………茅野孝明・佐藤二郎・

尾崎 眞・前 知子・増田道彦・浅野千尋… 21- 26

■学会・研究会抄録

第349回東京女子医科大学学会例会 (平成26年2月22日) …… 27- 34

第11回東京女子医科大学メンタルヘルス研究会

(平成25年12月12日)…………… 35

2014

Vol.84 No.1

ISSN 0040-9022

東女医大誌

J Tokyo Wom Med Univ

84巻 1号 平成26年2月

東京女子医科大学学会

SOCIETY OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY

JOURNAL OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY (TOKYO JOSHI IKADAIGAKU ZASSHI)

Volume 84 Number 1
February 25, 2014
ISSN 0040-9022

Society of Tokyo Women's Medical University
8-1, Kawada-cho, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-8666 Japan
Tel: 81-3-3353-8111 (ext. 22314) E-mail: gakkai.bi@twmu.ac.jp

Review

- Transplantation and the Most Advanced Medical Treatment
Transplantation (1) Liver Living Donor Liver Transplantation:
Development of the Operative Procedure and ABO-incompatible Transplantation
Satoshi OGATA, Hiroto EGAWA, Masakazu YAMAMOTO 1-8

Originals

- Clinical Characteristics of 8 Patients Undergoing Bilateral Surgical Removal
of Traumatic Intracranial Hematoma
Hidenori OHBUCHI, Shinji HAGIWARA, Asami KIKUCHI, Yuichi TAKAHASHI,
Chika YOSHIMURA, Suguru YOKOSAKO, Naoyuki ARAI, Yasuhiro KUROI,
Kengo HIROTA, Atsushi SASAHARA, Shigeru TANI, Hidetoshi KASUYA 9-12
- Gender Gap in Academic Medicine: Analysis of a Governmental Nationwide
Survey on Private Universities and Data of a Single Medical University
Yasuko TOMIZAWA, Satoru MIYAZAKI,
Naoko ISHIZUKA, Atsuko UENO, Yoshio UETSUKA 13-20

Report

- Multiple Myeloma in a Patient with Recurrent Herpes Zoster Induced by Chemotherapeutic Bortezomib
Takaaki CHINO, Jiro SATO, Makoto OZAKI,
Tomoko MAE, Michihiko MASUDA, Chihiro ASANO 21-26

Proceeding

- The 349th Regular Meeting of the Society of Tokyo Women's Medical University
(February 22, 2014) 27-34

東京女子医科大学学会ホームページ 一般公開のご案内

東京女子医科大学内限定で公開しておりました東京女子医科大学学会のホームページですが、この度、広く一般にも公開する運びとなりました。

機関誌『東京女子医科大学雑誌』への論文投稿・閲覧や学術集会・講演会のご案内など、会員の皆様に有意義な情報を配信してまいります。ご活用いただけましたら幸いです。

今後とも東京女子医科大学学会ならびに機関誌『東京女子医科大学雑誌』の発展にご協力くださいますようお願い申し上げます。

〔URL〕 <http://www.twmu.ac.jp/gakkai/>

The screenshot shows the homepage of the Tokyo Women's Medical University Association. At the top, there is a navigation bar with the university's name in Japanese and English, and links for '学術集会・講演会', '東京女子医科大学雑誌', '学会概要', and '事務手続き'. A 'TOPICS' section highlights a paper submission deadline for the 247th general meeting. Below this are four main content blocks: '学術集会・講演会' (Academic Meetings and Lectures), '東京女子医科大学雑誌' (Journal), '学会概要' (Association Overview), and '事務手続き' (Administrative Procedures). Each block contains a list of links to specific events and information. A '新着情報' (New Information) section on the left shows recent updates. On the right, there are promotional banners for journal subscriptions and commemorative book purchases. At the bottom, there is a 'LINK' section with links to the university and library, and contact information for the association's secretariat.

〔問合せ先〕

東京女子医科大学学会 事務局

〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1/東京女子医科大学 中央校舎3階 学会室

Tel・代表 03-3353-8111 (内線 22314)/Tel & Fax 03-5269-7403 (直通)

東京女子医科大学学会

会 長 笠貫 宏 学長
副会長 肥塚 直美 教授（医学部内科学第二）

編集担当幹事

阿部光一郎 准教授（医学部画像診断学・核医学科）
青見 茂之 准教授（医学部心臓血管外科学）
○江川 裕人 臨床教授（医学部消化器外科学）
▲遠藤 弘良 主任教授（医学部国際環境・熱帯医学）
測之上昌平 准教授（腎臓外科）
萩原 誠久 主任教授（医学部循環器内科学）
林 和彦 教授（化学療法・緩和ケア科）
檜垣 祐子 教授（女性生涯健康センター）
今西 健一 准教授（医学部微生物学免疫学）
石田 英樹 臨床教授（医学部泌尿器科学）
伊藤 景一 教授（看護学部地域看護学）
神尾 孝子 臨床教授（医学部外科学第二）
糟谷 英俊 教授（東医療センター脳神経外科）
木林 和彦 主任教授（医学部法医学）
小谷 透 准教授（医学部麻酔科学）
松井 英雄 主任教授（医学部産婦人科学）
三木 伸泰 准教授（医学部内科学第二）
野中 学 臨床教授（医学部耳鼻咽喉科学）
大貫 恭正 主任教授（医学部外科学第一）
斎藤加代子 教授（遺伝子医療センター）
○坂元 薫 教授（医学部精神医学）
櫻井 裕之 主任教授（医学部形成外科学）
◎澤田 達男 教授（医学部病理学第一）
篠崎 和美 講師（医学部眼科学）
杉原 茂孝 教授（東医療センター小児科）
玉置 淳 主任教授（医学部内科学第一）
田中 淳司 主任教授（医学部血液内科学）
谷口 敦夫 教授（膠原病リウマチ内科）
徳重 克年 准教授（医学部消化器内科学）

△内田 啓子 教授（学生健康管理センター）
内潟 安子 主任教授（医学部内科学第三）
内山真一郎 主任教授（医学部神経内科学）
山口 直人 主任教授（医学部衛生学公衆衛生学二）

集会担当幹事

荒井 純子 教授（看護学部内科学）
▲遠藤 弘良 主任教授（医学部国際環境・熱帯医学）
○橋本 悦子 教授（医学部消化器内科学）
◎肥塚 直美 教授（医学部内科学第二）
加茂登志子 教授（女性生涯健康センター）
川上 順子 主任教授（医学部生理学第一）
三谷 昌平 主任教授（医学部生理学第二）
小田 秀明 主任教授（医学部病理学第二）
小國 弘量 教授（医学部小児科学）
○尾崎 眞 主任教授（医学部麻酔科学）
佐藤 麻子 教授（中央検査部臨床検査科）
澤田 達男 教授（医学部病理学第一）
高村 悦子 臨床教授（医学部眼科学）
田邊 一成 主任教授（医学部泌尿器科学）
△内田 啓子 教授（学生健康管理センター）
上野 恵子 教授（東医療センター放射線科）

監事

石黒 直子 准教授（医学部皮膚科学）
八木 淳二 主任教授（医学部微生物学免疫学）

◎幹事長 ○副幹事長 ▲会計 △庶務 ABC 順

- 10: 16–27, 2004
- 24) **Tanabe M, Shimazu M, Wakabayashi G et al:** Intraportal infusion therapy as a novel approach to adult ABO-incompatible liver transplantation. *Transplantation* **73**: 1959–1961, 2002
- 25) **Yoshizawa A, Sakamoto S, Ogawa K et al:** New protocol of immunosuppression for liver transplantation across ABO barrier: the use of Rituximab, hepatic arterial infusion, and preservation of spleen. *Transplant Proc* **37**: 1718–1719, 2005
- 26) **Usuda M, Fujimori K, Koyamada N et al:** Successful use of anti-CD20 monoclonal antibody (rituximab) for ABO-incompatible living-related liver transplantation. *Transplantation* **79**: 12–16, 2005
- 27) **Egawa H, Teramukai S, Haga H et al:** Impact of rituximab desensitization on blood-type-incompatible adult living donor liver transplantation: a Japanese multicenter study. *Am J Transplant* **14**: 102–114, 2014
- 28) **Tanaka Y, Ohdan H, Onoe T et al:** Multiparameter flow cytometric approach for simultaneous evaluation of proliferation and cytokine-secreting activity in T cells responding to allo-stimulation. *Immunol Invest* **33**: 309–324, 2004
- 29) **Tanaka Y, Ohdan H, Onoe T et al:** Low incidence of acute rejection after living-donor liver transplantation: immunologic analyses by mixed lymphocyte reaction using a carboxyfluorescein diacetate succinimidyl ester labeling technique. *Transplantation* **79**: 1262–1267, 2005

移植と最先端医療—掲載予定—

執筆者	所属	テーマ	掲載号
江川裕人	消化器外科学	移植 (1) 肝臓	84 (1)
安藤智博	歯科口腔外科学	移植 (2) 歯科口腔外科	84 (2)
田中淳司	血液内科学	移植 (3) 骨髄	84 (3)
馬場園哲也	内科学 (第三)	移植 (4) 脾臓	84 (3)
乾 政志	泌尿器科学	移植 (5) 腎臓	84 (4)
湖之上昌平	腎臓外科	移植 (6) 脾腎同時移植	84 (4)
津久井宏行	心臓血管外科学	移植 (7) 心臓	84 (5)
櫻井裕之	形成外科学	移植 (8) 形成	84 (5)
大和雅之	先端生命医科学研究所	移植 (9) 細胞	84 (5)
大木岳志	消化器外科学	最先端医療 (1) 組織	84 (6)
篠崎和美	眼科学	最先端医療 (2) 角膜	84 (6)

第349回東京女子医科大学学会例会

日 時：平成26年2月22日（土）13：00～17：20

会 場：総合外来センター5階 大会議室

開会の辞
挨拶司会（幹事）佐藤麻子
（会長）笠貫 宏

平成25年度研究奨励賞授与式 13：03～13：15

選考経過報告 (学長) 笠貫 宏

山川寿子研究奨励賞（第26回）

1. 慢性腎臓病における血管石灰化抑制因子の探索 (内科学（第四）助教）浅宮有香理

佐竹高子研究奨励賞（第22回）

1. Stemness 遺伝子の発現異常によって惹起される
非アルコール性脂肪肝炎由来の肝発癌機構の解析 (消化器内科学助教) 小木曾智美
2. Fibroblast growth factor-23 の慢性腎臓病における作用 (東医療センター内科准教授) 小川哲也
3. 家族性 ALS 関連変異 SOD1 蛋白の細胞外放出と毒性解析 (病理学（第一）助教) 新井田素子
4. 腫瘍・炎症組織におけるリンパ管新生の形態学的解析 (解剖学・発生生物学講師) 森川俊一
5. 糖尿病性腎症に関する研究 (内科学（第三）講師) 馬場園哲也

平成23・24年度受賞者研究発表 13：15～14：30

山川寿子研究奨励賞（第24・25回） 座長（幹事）内田啓子

1. 単一細胞による管腔形成機構の分子的基盤の解明 (生理学（第二）講師) 中臺枝里子
2. IgA 腎症の妊娠、出産の腎予後へ与える影響についての検討 (内科学（第四）助教) 清水阿里
3. TCF7L2 遺伝子多型と糖尿病網膜症の関連の検討 (内科学（第三）助教) 中村新子

佐竹高子研究奨励賞（第21回） 座長（幹事）橋本悦子

1. 大腸癌肝転移に伴う転移前肝微小環境の形成 (薬理学助教) 出口敦子
2. 膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）の発生進展機序と、その関連分子に関する分子生物学的研究 (消化器内科学助教) 久保木友子

<休 憩>

第8回研修医症例報告会 14：45～17：20

〔○発表者、◎指導医〕

開始の挨拶 (卒後臨床研修センター長) 萩原誠久

Block 1 14：50～15：30

座長（循環器内科）志賀 剛

1. 脳梗塞で発症し、感染性脳動脈瘤破裂と脳膿瘍を合併したが後遺症なく退院した

人工弁感染性心内膜炎の1例

(東医療センター¹ 卒後臨床研修センター,²内科) ○池田果林¹・◎石川元直²・松田晶子²
菊池朋子²・大森久子²・中岡隆志²・佐倉 宏²

2. 腰椎椎体椎間板炎、腸腰筋膿瘍、髄膜炎を合併した
- Klebsiella pneumoniae*
- による肝膿瘍の1例

(東医療センター¹ 卒後臨床研修センター,²救急医療科) ○岸部佐希¹・◎高橋宏之²・増田崇光²
吉川和秀²・高橋政照²・磯谷栄²

3. 組織診を繰り返して心サルコイドーシスの診断に至った2例

—循環器内科における心サルコイドーシスの診断と治療—

(1 卒後臨床研修センター, 2 循環器内科, 3 呼吸器内科, 4 画像診断・核医学科) ○吉田彩乃¹浅井あかり¹・中北 朋¹・◎芹澤直紀²・島谷有希子²・喜多村一孝²・鈴木 敦²鈴木 豪²・志賀 剛²・庄田守男²・萩原誠久²・切土紗織³・八木理充³・玉置 淳³・福島賢慈⁴

4. 低ナトリウム血症治療中に浸透圧性脱髄症候群をきたした糖尿病性腎症患者の1例

(1 卒後臨床研修センター, 2 糖尿病センター内科, 3 神経内科, 4 画像診断・核医学科) ○橋田綾菜¹◎入村 泉²・保科早里²・佐藤麻子²・内山真一郎³・阿部香代子⁴・坂井修二⁴・内潟安子²**Block 2** 15:30~16:10

座長(血液内科学) 吉永健太郎

5. 腹腔鏡下に切除した肝外発育型巨大血管腫の1例

(1 卒後臨床研修センター, 2 消化器外科) ○古屋佳子¹・◎有泉俊一²高橋 豊²・山本 伸²・小寺由人²・片桐 聡²・江川裕人²・山本雅一²

6. NSIP 加療中に自己免疫性肺胞蛋白症が顕在化し胸腔鏡下肺生検にてノカルジア症合併が判明した1例

(1 卒後臨床研修センター, 2 呼吸器内科) ○佐竹霜一¹・◎切土紗織²落合克律²・赤羽朋博²・辻真世子²・近藤光子²・玉置 淳²

7. アミオダロン投与5ヵ月後に肺胞出血を来たした1例

(1 卒後臨床研修センター, 2 循環器内科, 3 呼吸器内科) ○佐竹有貴¹・◎鈴木 敦²・鈴木 豪²芹澤直紀²・志賀 剛²・花輪智秀¹・東谷真実³・溝渕莉恵³・落合克律³・玉置 淳³・萩原誠久²

8. 免疫抑制療法単独で早期肺動脈性肺高血圧症が改善した混合性結合組織病(MCTD)の1例

(1 卒後臨床研修センター, 2 リウマチ内科, 3 循環器内科) ○佐藤えみり¹・◎花岡成典²平野瑤子¹・五野貴久²・勝又康弘²・川口鎮司²・山中 寿²・芹澤直紀³・萩原誠久³

<休 憩>

Block 3 16:20~17:10

座長(救急医学) 武田宗和

9. 多発性胃潰瘍による出血性ショックに胃全摘出術が奏功した糖尿病および

足壊疽合併腹膜透析患者の1症例

(東医療センター 1 卒後臨床研修センター, 2 内科) ○阿部麻衣¹・井上朋子²・興野 藍²樋口千恵子²・◎小川哲也²・佐倉 宏²

10. 多彩な病像を呈した好酸球性肉芽腫症の1例

(1 卒後臨床研修センター, 2 消化器内科) ○藤井なるみ¹・◎谷合麻紀子²

11. 非ヘルペス性辺縁系脳炎後短期間に発生した視床下部腫瘍の1例

(東医療センター 1 卒後臨床研修センター, 2 脳神経外科) ○稲塚万佑子¹・◎萩原信司²

12. 脳卒中様発作にて発症し2年半の経過で中枢神経原発悪性リンパ腫が疑われた1例

(東医療センター 1 卒後臨床研修センター, 2 内科, 3 脳神経外科, 4 皮膚科, 5 病院病理科) ○竹田津史野¹大熊順子¹・井藤尚武¹・伊藤浩敬²・諏訪邦明²・八反丸美和²・◎西村芳子²柴田興一²・佐倉 宏²・吉村知香³・糟谷英俊³・田中 勝⁴・藤林真理子⁵

13. 十二指腸静脈瘤破裂の1例

(東医療センター 1 卒後臨床研修センター, 2 救急医療科) ○松岡 綾¹・◎吉川和秀²高橋宏之²・増田崇光²・高橋政照²・磯谷栄二²

初期臨床研修現況報告

(研修管理委員会) 川名正敏

ベストプレゼンテーション表彰式

閉会の辞

司会(幹事) 佐藤麻子

第11回東京女子医科大学メンタルヘルス研究会 —大学病院における精神疾患の治療について—

日 時：平成25年12月12日（木）18:15～20:00

会 場：東京女子医科大学 臨床講堂Ⅱ

開会の辞

（神経精神科） 石郷岡純

Session 1 症例発表 18:30～19:00

座長（高血圧・内分泌内科） 市原淳弘

高血圧・内分泌代謝疾患と「こころ」の問題について

（高血圧・内分泌内科） 渡辺大輔

追加提言（循環器内科） 萩原誠久

Session 2 特別講演 19:00～20:00

座長（神経内科） 内山真一郎

節酒？断酒？～アルコール専門治療の勧め方～

（慈友クリニック 院長） 米沢 宏

閉会の辞

（産婦人科） 石谷 健

共 催：東京女子医科大学，ファイザー株式会社

高血圧・内分泌代謝疾患と「こころ」の問題について

（高血圧・内分泌内科） 渡辺大輔

近年、ライフスタイルの変化により糖尿病や高血圧患者が増加し、これらの疾患と「こころ」の問題が注目されている。糖尿病患者はうつ病になりやすく、またうつ病患者も糖尿病になりやすいといわれている。うつ病になると、血糖値のコントロールが困難になることがあり、適切な治療を受けることが重要である。今回、サブクリニカルクッシング症候群に、うつ病が合併した症例を提示する（症例1）。一方で高血圧患者においても、うつ病が合併しやすい傾向にあり、高血圧の治療に悪影響を与えることが示唆される。高血圧にうつ病が合併した症例を提示する（症例2）とともに近年、治療抵抗性高血圧に

対する腎デナベーションが、生活の質（QOL）を改善することが報告されており、文献的考察を加える。

節酒？断酒？～アルコール専門治療の勧め方～

（慈友クリニック） 米沢 宏

一般病院に入院中の患者の入院の原因の2～3割にアルコールが絡んでいると言われていました。肝障害を初め胃潰瘍、糖尿病、痛風、酔って転んで骨折、不整脈など。入院でよくなっても再び飲酒すれば悪化。先生方が節酒や禁酒を勧めても受け入れない、お酒の問題を認めない。“否認の病”と言われる所以です。先生方のご苦勞をどのようにアルコール専門機関は引き受けるか、どのような連携が有効なのか、ご一緒に考えたいと思います。

雑 報

○編集担当幹事会

日時 平成 25 年 11 月 11 日
場所 本部棟 3 階 第二会議室
議題 東京女子医科大学雑誌 83 巻 6 号査読結果審議, 第 85 巻掲載シリーズ, 転載許諾, 学会ホームページについて

日時 平成 25 年 12 月 9 日
場所 総合外来センター 1 階 セミナー室
議題 東京女子医科大学雑誌 84 巻臨時増刊号査読結果審議, 第 85 巻掲載シリーズ, 学会ホームページについて

○集会担当幹事会

日時 平成 25 年 12 月 24 日 (火) 17:00~
場所 D 会議室
議題 第 349 回例会, 第 30 回吉岡弥生記念講演会 (第 350 回例会), 平成 26 年評議員会, 第 80 回総会, その他について

編集後記

本年 11 月に大阪において The 12th Congress of International Xenotransplantation Association jointly held with the iABO/Hyper Immune Symposium が開催されました。iABO/Hyper Immune Symposium においては私が会長を、また The 12th Congress of International Xenotransplantation Association では副会長

を務めさせていただきました。The iABO/Hyper Immune Symposium は今回初めて開催されました。

移植領域において ABO 血液型不適合移植は日本が中心的な役割を担ってきていますが、海外においても近年活発に行われるようになってきています。それは ABO 不適合移植が適応の拡大や移植の待機期間を短縮することに役立つからです。また最近ではこの免疫抑制法が抗ドナー抗体陽性例にも応用されてきています。

異種移植の進歩もこの数年で目覚ましいものがあります。以前臨床応用はかなり先になるものと予測されていましたが、臍島移植などもう一步という領域もあります。しかし、異種移植特有の拒絶反応やウイルス感染症など解決すべき問題も多く残されています。

学会ではわが国からも数多くの優秀な演題が発表されていましたが、やはり私も含め日本人にとって言葉の壁はまだ厚いと感じざるを得ませんでした。せっかく優秀な演題であっても相手にうまく伝わらなくては全く意味のないものとなってしまいがちです。以前より語られてきたことですが、語学力と口述力は我々にとって早期に解決すべき課題と改めて痛感させられました。本学会誌においても同様であり、査読して思うのは良い論文でも英文でなければ埋もれてしまうのではないかとの危惧です。

みなさん頑張って英文で投稿をしてください。査読するものとしては大変ですが、

(2013. 12, 淵之上昌平)

編集担当幹事：阿部光一郎	青見茂之	江川裕人○	遠藤弘良	淵之上昌平	萩原誠久
林 和彦	檜垣祐子	今西健一	石田英樹	伊藤景一	神尾孝子
糟谷英俊	木林和彦	小谷 透	松井英雄	三木伸泰	野中 学
大貫恭正	斎藤加代子	坂元 薫○	櫻井裕之	澤田達男◎	篠崎和美
杉原茂孝	玉置 淳	田中淳司	谷口敦夫	徳重克年	内田啓子
内湯安子	内山真一郎	山口直人		(ABC 順, ◎幹事長, ○副幹事長)	

東京女子医科大学雑誌 84 巻 1 号：平成 26 年 2 月 25 日発行 (偶数月発行)

Journal of Tokyo Women's Medical University Vol. 84 No. 1: February 25, 2014

発行者：笠貫 宏

発行所：東京女子医科大学学会

事務局：〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1 東京女子医科大学 中央校舎 3 階 学会室

Tel & Fax：03-5269-7403/E-mail：gakkai.bi@twmu.ac.jp

購読料：年会費 6,000 円を含む。1 冊定価 1,000 円 (税・送料共)

振込先：(銀行振込) 東京女子医科大学学会 会長 笠貫 宏

三菱東京 UFJ 銀行 東京女子医大出張所 普通 3643723

(郵便振替) 東京女子医科大学学会 00150-4-4342

印刷：株式会社杏林舎 〒114-0024 東京都北区西ヶ原 3-46-10 Tel：03-3910-4311/Fax：03-3949-0230

広告扱い：日本医学広告社 〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-12-8

Tel：03-5226-2791/Fax：03-5226-0195

*本誌の内容を無断で複写・複製すると、著作権・出版権の侵害になりますのでご注意ください。

東京女子医科大学学会会則

昭和 56 年制定 平成 24 年改訂

総 則

- 第 1 条 東京女子医科大学学会（以下、本会という）を学校法人東京女子医科大学（以下、本学という）に設ける。
- 第 2 条 本会は医学・看護学および医療の進歩向上を図ることを目的とし、そのための諸活動を行う。

会 員

- 第 3 条 本会の会員は、本会の目的に賛同した者で、会長の承認を得るものとする。但し、本学に常勤する准講師以上の教職員は入会するものとする。
- 第 4 条 本会は、正会員・名誉会員・準会員・特別会員によって構成される。

役 員

- 第 5 条 本会に次の役員を置く。会長 1 名、副会長 1 名、幹事若干名、監事 2 名、第 5 項に該当する評議員。
2. 会長は学長とし、本会の運営を総理する。
 3. 副会長は幹事の中から会長が指名する。副会長は会長を補佐し、会長が職務遂行に支障のある時はその代行を務める。
 4. 幹事および監事は評議員の中から会長が指名する。任期は 2 年とし、再任を妨げない。
 5. 評議員は准教授以上の本会正会員で役員の推薦を得て総会で承認を受けた者とし、本会の運営に寄与する。任期は 4 年とし、再任を妨げない。

集 会

- 第 6 条 本会の集会は総会、例会とする。
2. 総会を年 1 回開催し、庶務、会計、監査報告ならびに学術講演を行う。
 3. 例会を年 2 回開催し、学術に関する講演討論等を行う。

評議員会・幹事会

- 第 7 条 評議員会を年 1 回以上開催する。
2. 幹事は職務別に担当を決め、集会・編集・庶務・会計をそれぞれ担当し、集会・編集に関しては幹事会を月 1 回開催する。

分 科 会

- 第 8 条 本会に分科会を置くことができる。

機関誌発行

- 第 9 条 本会の機関誌を『東京女子医科大学雑誌』と称し、原則として隔月（偶数月）の発行とし本会会員に配布する。

経 費

- 第 10 条 経費は会費、入会金、寄付金、その他の収入をこれに充てる。
- 第 11 条 正会員は会費を納入する。但し、名誉会員・準会員はこれを免除する。

事 務

- 第 12 条 本会の事務室を本学 学会室に置く。

細 則

- 第 13 条 本会で講演または討論する者は本会会員に限る。但し、会長の許可を得た者はその限りではない。
- 第 14 条 会員は自己の業績を機関誌に投稿することができる。

附 則

1. 本会会則は評議員会の議決と総会の承認を得て変更することができる。
2. 会則の施行に必要な内規を別に定める。
3. この会則は、平成 24 年 10 月 1 日より施行する。

東京女子医科大学学会内規

昭和 60 年制定 平成 23 年改訂

第 1 条 会 員

1. 名誉会員
本学名誉教授および本会に対して特別な功労のある者で評議員の推薦を受け、会長の承認を得た者とし、会費納入を免除する。正会員と同等の資格を有するが、本会の役員には就任できない。
2. 準会員
本学学生、初期臨床研修医は準会員となり、会費納入を免除する。申し出のあった者のみに機関誌を配布する。
3. 特別会員
東京女子医科大学後援会特別会員のうち、本会への入会を希望した者とする。

第 2 条 入会および退会

1. 入会
 - 1) 所定の入会申込書を学会室へ提出する。
 - 2) 年会費は前納制とし、郵便振替または銀行振込で納入する。賞与対象者については、入会後の会費は下半期の賞与から自動引き落としとする。
2. 退会・休会
 - 1) 退会・休会は、その旨を書面で学会室まで申し出る。
 - 2) 休会は海外留学の場合に限り認める。期間は 3 年を限度として、その間の会費を免除する。
 - 3) 12 月末までに次年会費未納で退会届けのない場合は会員とみなし機関誌を配布し、会費を請求する。2 年滞納した場合は自然退会とする。自然退会者が再入会する場合は未納分会費を納入する。

第 3 条 集 会

1. 総会
 - 1) 年 1 回、9 月に行う。
 - 2) 総会では庶務、会計、監査報告を行い、評議員会から提出された事項を審議し、承認を得る。
 - 3) 吉岡博人記念総合医学研究奨励賞授与式と受賞グループの研究発表を行う。他に学術講演等を行う。
2. 例会
 - 1) 年 2 回、5 月、2 月に行う。
 - 2) 5 月は吉岡弥生記念講演会と称し、原則として吉岡弥生学頭の命日に当たる 5 月 22 日に開催し、吉岡弥生研究奨励賞授与式と前年度受賞者の研究発表、吉岡弥生記念講演を行う。吉岡弥生記念講演については第 3 項に定める。
 - 3) 2 月は山川寿子研究奨励賞および佐竹高子研究奨励賞授与式と前年度受賞者の研究発表、一般演題、その他の発表を行う。
3. 吉岡弥生記念講演会
 - 1) 吉岡弥生学頭の建学の精神を称え、後世に継承するために行う。
 - 2) 講師は医学関係に限らず、広く文化、芸術、学術全般にわたって活躍している原則として女性講師を招聘する。

第 4 条 評議員会・幹事会

1. 評議員会
年 1 回以上の評議員会では、庶務・会計・監査報告、会則の変更、新評議員の推薦等の学会運営に関する重要な事項を審議する。
2. 幹事会
 - 1) 集会担当幹事 若干名、編集担当幹事 若干名、庶務担当幹事 2 名、会計担当幹事 1 名、監事 2 名。
 - 2) 集会・編集担当幹事の各々に幹事長、副幹事長を置く。幹事長は各幹事会を主催し、月 1 回幹事会を開き必要事項を討議する。副幹事長は幹事長を補佐し、幹事長が職務遂行に支障のある時はこれを代行する。
 - 3) 集会担当幹事の職務
会則第 7 条に則り、総会、例会、評議員会等の運営に関する一切の業務を担当する。
 - 4) 編集担当幹事の職務
会則第 9 条に則り機関誌の編集方針および投稿規定を定め、投稿論文の査読、採否の検討等の業務を担当する。

第 5 条 機関誌発行

1. 機関誌を原則として隔月（偶数月）の発行とする。
2. 機関誌は依頼により臨時に増刊することができる。但し、退職記念特集を優先し、費用は依頼者の全額負担とする。

第 6 条 分科会

1. 分科会は、本会に所定の認定依頼状を提出し、会長の承認を必要とする。
2. 分科会は、広く学内各分野に共通した特定の課題を中心に、定期的に学術講演、研究発表を行う。
3. 抄録を機関誌に掲載することができる。

第 7 条 附 則

1. この内規は集会担当幹事会の議決により会長の承認を得て変更することができる。
2. この内規は、平成 23 年 10 月 1 日より施行する。

東京女子医科大学雑誌投稿規定（平成24年4月改訂）

1. **投稿資格**：投稿は共著者も含め本学会員に限る。但し、本学会に籍のない共著者は会員であるかを問わない。また、準会員のみでは投稿できない。
2. **原稿種類**：投稿内容は原著、総説、報告、抄録、などとする。いずれも未発表のものに限る。
3. **倫理**：人を対象とした論文は、東京女子医科大学倫理委員会規程ならびに遺伝子解析研究に関する倫理審査委員会規程に則って行われた研究であり、また動物を用いた研究は本学会動物実験倫理委員会基準を遵守して行われた研究でなければならない。なお、本学会以外で行われた研究の場合は、これに準ずるものとする。
4. **採否・掲載順**：原稿の採否、掲載順は編集担当幹事会において決定する。受理した原稿は原則として返却しない。
5. **著作権・版權**：本誌に採用された場合、著作権は本学会に委譲され、版權は本学会に帰属する。
6. **転載・引用**：既出版の図表を転載・引用する場合は必ず出典を明示する。その際、著作権の所有者の転載許可を必要とする。
7. **依頼原稿**：総説は原則として編集担当幹事会の依頼によるものとし、その著者は本学会員に限定しない。掲載料ならびに別刷50部までを無料とする。
8. **抄録**：編集担当幹事会が必要と認めた学術集会の抄録その他に関するものは有料で掲載することができる。本学会が認定した分科会の場合は刷上り2頁まで無料とする。
9. **臨時増刊**：依頼により臨時に特別号を発行することができる。費用は依頼者の全額負担とする。
10. **料金**：掲載料は普通紙で、和英論文とも刷上り原著・総説は4頁、報告は2頁まで無料、超過1頁につき5,000円とする。別刷は50部単位で表紙に明記し、実費とする。
11. **投稿締切**：原則として偶数月7日を締切とする。
12. **提出**：原稿3部、投稿申込書、チェックシート、電子媒体（USBなど）を提出する。英文論文は英文校閲証明書も提出する。投稿申込書は主任教授または指導者の承認、共著者の同意、著作権の委譲に関して証明したものの。
13. **校正**：初校・再校とも著者校正を原則とする。大幅な改変は認めない。
14. **原稿枚数の上限**
原著・総説は刷上り10頁（図表含む）程度、図表10点程度とする。報告は刷上り6頁（図表含む）程度、図表5～6点程度とする。
15. **原稿の書き方**：
 - 1) **書式**：原稿はA4判に横書きとし、上下左右余白・行間を適宜とり、本文最初の頁に文字数×行数の設定を明記する。
 - 2) **表紙**：表題、所属、主任または指導者氏名、著者氏名（フリガナ）、英文表題、ローマ字著者名（名・姓の順、姓は大文字）、英文所属を書く。
 - 3) **要旨**：和英論文とも、和文要旨（800字以内）、英文要旨（200語以内、英単語5個以内のキーワード）を添える。
- 4) **英文論文**は本文・英文要旨・図表およびその説明の英文校閲を受け、その証明を添付する。
- 5) **構成**：原則として、緒言、対象および方法、結果、考察、結論、利益相反、文献、図の表題と説明、図、表、の順とする。
- 6) **図(写真)・表**：図表およびその説明は、和英論文とも英語表記とする。図はそのまま印刷できる明瞭なものとし、修飾(立体や網掛けなど)しない。裏面に番号、上下を記す。図の表題と説明は別紙に一括する。カラー写真・アート紙使用はその旨明記し、トレースを要する場合もともに実費を徴収する。表は横線のみで構成し、表題・説明を含めたものとする。
- 7) **用語・単位**：当用漢字、現代かなづかいを用いる。専門用語は学会で統一されたものを用い、略語は初出時に正式用語またはスペルを記載する。度量衡の単位、記号は国際単位系(SI)を原則とする。
- 8) **文献**：次の形式で記載する。著者は3名まで記載し、外国人名は姓名の順とする。雑誌名の略記は医学中央雑誌およびMedlineに従う。
雑誌；
川村雅枝, 重本六男, 森吉百合子ほか：ラット cys-teamine 十二指腸潰瘍の発生機序について。東女医大誌 **56**：668-676, 1986
Quimby GF, Bonnice CA, Burnstein SH et al: Active smoking depresses prostaglandine synthesis in human-gastric mucosa. *Ann Intern Med* **104**: 616-619, 1986
Jurgens HA, Johnson RW: Dysregulated neuronal-microglial cross-talk during aging, stress and inflammation. *Exp Neurol* 2010, doi: 10.1016/j.expneurol.2010.11.014, Published online (accessed on Aug 28, 2010)
単行本；
城所良明：神経筋接合の形成。「筋発生の細胞生物学」(小沢英二郎, 嶋田 裕, 真崎知生編), pp259-282, 学会出版センター, 東京 (1983)
Kahn CR, Roth J: Insulin receptors in disease states. *In* Hormone-Receptor Interaction (Levy GS ed), pp1-29, Marcel Dekker, New York (1981)
Bargman JM, Skorecki K: Part 13. Disorders of the Kidney and Urinary Tract. Chapter 280. Chronic Kidney Disease. *In* Harrison's Online. The McGraw-Hill Companies, New York. <http://www.accessmedicine.com/content.aspx?aid=9130075> (accessed on Sep 5, 2011)
16. **電子媒体**：USBなどに原稿と図表のファイルを保存し、ソフト (version) 筆頭著者名、所属を記す。
17. **連絡先**：投稿、編集、印刷に関する問い合わせ等はすべて下記宛とする。
〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1
東京女子医科大学 中央校舎3階 学会室
Tel・代表：03-3353-8111 (内線22314)
Tel & Fax：03-5269-7403 (直通)
E-mail address：gakkai.bi@twmu.ac.jp
<http://www.twmu.ac.jp/gakkai/>

投稿申込書

平成 年 月 日

東京女子医科大学雑誌 編集委員長 殿

下記論文を貴誌に投稿いたします。この論文は他誌に未発表であり、また投稿中でもありません。採用された場合には、この論文の著作権を東京女子医科大学学会に委譲すること、当学会と契約を交わした Web サイトへ英文あるいは和文要旨を掲載することに同意いたします。

なお、本論文の内容に関しては、著者（ら）が一切の責任を負います。

署名

論文表題	
------	--

署名	著者全員の署名が必要です。欄が足りない場合はコピーして2枚提出して下さい。			
①	年 月 日	②	年 月 日	
③	年 月 日	④	年 月 日	
⑤	年 月 日	⑥	年 月 日	

原稿種類	<input type="checkbox"/> に✓または×を入れて下さい。
	<input type="checkbox"/> 原著 (<input type="checkbox"/> 学位申請論文) <input type="checkbox"/> 総説 <input type="checkbox"/> 報告 <input type="checkbox"/> ほか ()

推薦	原著・学位申請論文の場合、主任教授または指導者の署名が必要です。	
署名		所属

連絡先	<input type="checkbox"/> 医局・教室 <input type="checkbox"/> 出張先 <input type="checkbox"/> 自宅		
氏名		所属	
住所	〒		
Tel	Fax	E-mail Address	

請求書宛名	<input type="checkbox"/> 筆頭著者名 <input type="checkbox"/> 医局・教室名 <input type="checkbox"/> ほか ()		
-------	------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

請求書送付先	<input type="checkbox"/> 医局・教室 <input type="checkbox"/> 出張先 <input type="checkbox"/> 自宅		
氏名		所属	
住所	〒		

利益相反	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり
IR*登録	<input type="checkbox"/> 同意しない

※IR とは「東京女子医科大学学術リポジトリ Twinkle」
(<http://ir.twmu.ac.jp/dspace/>) のこと。

IRには全文を登録します。

☑のない場合は同意していただいたものといたします。

学会室記入欄：

論文受付日 年 月 日

論文受理日 年 月 日

受付番号

東京女子医科大学雑誌～チェックシート～

平成 25 年 9 月

以下の□にすべてチェックが入った状態で投稿してください

提出書類

- 原稿 3 部
- 投稿申込書
- <原著の場合>
 - 主任教授または指導者の署名
- <英文論文の場合>
 - 英文校閲証明書
- 電子媒体
 - 表紙・本文（倫理審査，利益相反を含む）・文献を「本文」ファイルとする
 - 英文要旨を「英文要旨」ファイルとする
 - 和文要旨を「和文要旨」ファイルとする
 - 図・写真の説明を「図説」ファイルとする
 - 図・写真または表を「図」「表」ファイルとする
- チェックシート（本紙）

原稿書式

- A4 判用紙
- 行間 1.5 行程度あける
- ページ番号を付す
- 小見出しの番号は、1. → 1) → (1) → ①の順で使用する
- 図表箇所を原稿右余白に記す
- 略称を用いる場合、初出時に定義する
- 修飾文字（イタリック，上付き，下付き，プライム等）を指定する
- 原稿枚数の上限内である
- <原著と総説の場合>
 - 刷上り頁数（図表含む） 10 頁
 - 図表 10 点
- <報告の場合>
 - 刷上り頁数（図表含む） 6 頁
 - 図表 5～6 点

表紙

- A4 判用紙 1 枚におさめる
- <和文論文の場合>
 - 原稿の種類 ※原著／総説／報告など
 - 和文タイトル
 - 和文所属
 - 著者氏名（フリガナ）
 - 英文タイトル
 - ローマ字著者氏名 ※名・姓の順，姓は大文字
 - 英文所属
- <英文論文の場合>
 - 原稿の種類 ※Original／Review／Report など
 - 英文タイトル
 - ローマ字著者氏名 ※名・姓の順，姓は大文字
 - 英文所属

英文要旨

- A4 判用紙 1 枚におさめる
- 英文タイトル
- ローマ字著者氏名 ※名・姓の順，姓は大文字
- 英文所属
- 本文 200 words 程度
- Key Words（英単語 5 個以内）

和文要旨

- A4 判用紙 1 枚におさめる
- 和文タイトル
- 和文所属
- 著者氏名（フリガナ）
- 本文 800 文字程度

（裏へ）

本文構成

<総説の場合>

- はじめに Introduction
- おわりに Conclusion
- 文献 Reference

<原著の場合>

- 緒言 Introduction
- 対象および方法 Materials and Methods
- 結果 Results
- 考察 Discussion
- 結論 Conclusion
- 文献 Reference

<報告の場合>

- 緒言 Introduction
- 症例 Case Report
 - 患者 Patient
 - 主訴 Chief complaint
 - 既往歴 History of past illness
 - 現病歴 History of present illness
 - 血液生化学検査 Blood gases など
- 結果 Results
- 考察 Discussion
- 結論 Conclusion
- 文献 Reference

倫理審査 ※該当する場合は承認を得たことを“対象および方法”で記載してください

承認済

非該当

利益相反 ※文献の前に記載してください

<ない場合>

- 「開示すべき利益相反状態はない。」「The author(s) indicated no conflicts of interest.」などと記載する

<ある場合>

- 「この研究の〇%は×××からの支援により行った。」「About 〇% of this study was supported by ×××.」などと記載する

文献

文献引用箇所を本文中に明記する

文献番号は本文表出順とする

著者名は姓・名順とする

省略を表すピリオドは不要

雑誌名は略記する

終頁は省略しない (例) 正: 234-236 誤: 234-6

その他、記述法が正しい

<雑誌の場合>

著者名 3名+ほか または et al: 論文のタイトル. 雑誌名の略記 巻(号): 始頁-終頁, 発行年

<著書(和文)の場合>

著者名 3名+ほか: 引用章タイトル. 「書名」(編集・監修者名), pp 始頁-終頁, 出版社, 出版地(発行年)

<著書(英文)の場合>

著者名 3名+et al: 引用章タイトル. In 書名(編集・監修者名 ed), pp 始頁-終頁, 出版社, 出版地(発行年)

図(写真)の説明

タイトルがある

説明がある

タイトルおよび説明を英語表記とする

図(写真)

図・写真中の単語を英語表記とする

文字サイズ・フォントを考慮して作成する

図番号を明記する ※写真は図とする

希望する印刷法(カラーまたはモノクロ)を明記する

手札サイズの写真はA4判用紙に貼る(四隅のみ糊付け)

同じ図番号の場合は出来るだけ同じ用紙におさめる

カラー印刷希望の場合は出来るだけ1頁におさめる ※出来上り1頁60,000円

<転載の場合>

出典元情報を明記する

転載許諾を得る ※転載許諾書をご提出下さい

表

タイトルがある

説明がある

表中の単語、タイトルおよび説明を英語表記とする

署名



【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

- (1)有効な抗菌剤の存在しない感染症、全身性の真菌症の患者[症状を増悪させるおそれがある。]
- (2)本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者

効能・効果

アレルギー性鼻炎

用法・用量

<成人>

通常、成人には、各鼻腔に2噴霧ずつ1日1回投与する(モメタゾンフランカルボン酸エステルとして1日200 μ g)。

<小児>

通常、12歳未満の小児には、各鼻腔に1噴霧ずつ1日1回投与する(モメタゾンフランカルボン酸エステルとして1日100 μ g)。

通常、12歳以上の小児には、各鼻腔に2噴霧ずつ1日1回投与する(モメタゾンフランカルボン酸エステルとして1日200 μ g)。

使用上の注意

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1)結核性疾患、未治療の感染症及び目の単純ヘルペス患者[症状を増悪させるおそれがある。]
- (2)反復性鼻出血の患者[出血を増悪させるおそれがある。]

2. 重要な基本的注意

- (1)鼻・咽喉頭真菌症が発現した場合、本剤の投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- (2)全身性ステロイド剤と比較し可能性は低いが、点鼻ステロイド剤を特に長期間、大量に投与する場合に小児の成長遅延をきたすおそれがある。本剤を小児に長期間投与する場合には、身長等の経過の観察を十分行うこと。また、使用にあたっては、使用法を正しく指導すること。
- (3)ステロイド剤は創傷治癒を抑制する作用があるため、鼻中隔潰瘍のある患者、鼻の手術を受けた患者、あるいは鼻外傷のある患者には、患部が治癒するまで本剤を投与しないこと。
- (4)ステロイド剤の全身投与から局所投与に切り替えた際に、副腎皮質機能不全又は離脱症状(関節あるいは筋肉の疼痛、倦怠感及びうつ等)が発現することがあるので、これらの徴候、症状があらわれた場合には、適切な処置を行うこと。また、全身性ステロイド剤の減量中並びに離脱後も副腎皮質機能検査を行い、外傷、手術、重症感染症等の侵襲には十分に注意を払うこと。
- (5)全身性ステロイド剤と比較し可能性は低いが、点鼻ステロイド剤の投与に

処方せん医薬品(注意—医師等の処方せんにより使用すること)

定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤

薬価基準収載

ナゾネックス® 点鼻液 50 μ g
56噴霧用/112噴霧用

モメタゾンフランカルボン酸エステル水和物点鼻液

Nasonex

より全身性の作用(クッシング症候群、クッシング様症状、副腎皮質機能抑制、小児の成長遅延、骨密度の低下、白内障、緑内障を含む)が発現する可能性がある。特に長期間、大量投与の場合には定期的に検査を行い、全身性の作用が認められた場合には適切な処置を行うこと。

- (6)過半数アレルギー性鼻炎の患者において長期に使用する場合、症状の改善状態が持続するようであれば、本剤の減量につとめること。
- (7)本剤の投与が数ヵ月以上にわたる場合は、鼻中隔潰瘍等の鼻所見に注意すること。
- (8)季節性の疾患に対しては、好発期を考えて、その直前から治療を開始し、抗原との接触がなくなるまで続けることが望ましい。

3. 副作用

<成人>

承認時までの臨床試験で、本剤における副作用は1,753例中127例(7.2%)に認められた。主なものは、鼻症状(刺激感、そう痒感、乾燥感、疼痛、発赤等)40例(2.3%)、咽喉頭症状(刺激感、疼痛、不快感、乾燥等)28例(1.6%)であった。また、臨床検査値の異常変動は1,753例中137例(7.8%)に認められた。主なものは、リンパ球減少18例(1.0%)、ビリルビン上昇18例(1.0%)であった。なお、鼻腔内真菌検査を実施した臨床試験では、230例中7例(3.0%)で真菌検査が陽性であったが、鼻腔内真菌症と診断された症例はなかった。

<小児>

用法・用量の追加承認時までの小児臨床試験で、本剤における副作用は300例中8例(2.7%)に認められた。主なものは、鼻症状(不快感、刺激感、乾燥感)5例(1.7%)、鼻出血3例(1.0%)であった。また、臨床検査値の異常変動は300例中19例(6.3%)に認められた。非盲検非対照による長期投与試験において血中コルチゾール値を不定時に測定した結果、80例中15例(18.8%)にコルチゾール減少が認められた。

(1) 重大な副作用

アナフィラキシー様症状(頻度不明)[※]: アナフィラキシー様症状(呼吸困難、全身潮紅、血管浮腫、蕁麻疹等)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には本剤の投与を中止し、適切な処置を行うこと。

注) 海外での市販後の報告であり頻度不明

その他の使用上の注意については添付文書をご参照ください。

【MSDカスタマーサポートセンター】

医療関係者の方: フリーダイヤル 0120-024-961

〈受付時間〉9:00-18:00 (土日祝日・当社休日を除く)



製造販売元 (資料請求先)

MSD株式会社

〒102-8667 東京都千代田区九段北 1-13-12 北の丸スクエア

<http://www.msd.co.jp/>



GlaxoSmithKline

生きる喜びを、もっと
Do more, feel better, live longer



持続性選択H₁受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤 【薬価基準収載】
処方せん医薬品(注意—医師等の処方せんにより使用すること)

ザイザル[®]錠5mg

Xyzal[®] Tablets 5mg レボセチリジン塩酸塩錠

「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」、「用法・用量に関連する使用上の注意」等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元(輸入)
グラクソ・スミスクライン株式会社
〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-6-15
グラクソ・スミスクラインの製品に関するお問い合わせ・資料請求先
TEL: 0120-561-007(9:00~18:00/土日祝日および当社休業日を除く)
FAX: 0120-561-047(24時間受付)

2012年7月作成



Bristol-Myers Squibb

深刻な疾患との闘い

ブリistol・マイヤーズ株式会社は、深刻な病気を持つ患者さんを助けるための革新的な医薬品を発見、開発し、提供することを使命とする世界的なバイオファーマ企業です。革新的な科学への熱意、いまだ有効な治療法がない重篤な疾患に対する研究開発力、そして生物学的製剤分野における優れた競争力を備えています。私たちの企業戦略は「バイオファーマ」に変化を遂げて、さらに進化させることです。これは、伝統ある大規模な製薬企業の基盤と革新的なバイオテクノロジー企業、この2つの特長を兼ね備えた新しい種類の事業体です。この戦略で重要なことは、革新的な新薬を可能な限り迅速に患者さんに提供するのに役立つ、適切な優先課題と選択事項に注力することです。わたくしたちは次世代の治療薬を見出そうと日々、たゆまぬ努力を重ねてまいります。

経口FXa阻害剤 【処方せん医薬品】 【薬価基準収載】
エリキュース[®]錠 2.5mg / 5mg
Eliquis, tablets 2.5mg, 5mg (アピキサラン錠) 【注意—医師等の処方せんにより使用すること】
【薬価基準収載】

T細胞選択的共刺激調節剤 【薬価基準収載】
オレンシア[®]点滴静注用250mg
【生物学的製剤】 【処方せん医薬品】 【注意—医師等の処方せんにより使用すること】
一般名: アバタセプト(遺伝子組換え) ORENCIA[®]

T細胞選択的共刺激調節剤 【薬価基準収載】
オレンシア[®]皮下注125mg シリンジ1mL
【生物学的製剤】 【処方せん医薬品】 【注意—医師等の処方せんにより使用すること】
一般名: アバタセプト(遺伝子組換え) ORENCIA[®]

抗ウイルス化学療法剤 【処方せん医薬品】 【薬価基準収載】
バラクルード[®]錠 0.5mg
エンテカビル水和物錠
新薬 処方せん医薬品(注意—医師等の処方せんにより使用すること) 【薬価基準収載】

抗悪性腫瘍剤 (チロシンキナーゼ阻害剤) 【薬価基準収載】
スプリセル[®]錠 20mg
SPRYCEL[®] cimetidine
新薬 処方せん医薬品^{※1} 【注意—医師等の処方せんにより使用すること】

抗悪性腫瘍剤 抗HERGFR[®]モノクローナル抗体 【薬価基準収載】
アービタックス[®]注射液100mg
セツキシマブ(遺伝子組換え)製剤
【生物学的製剤】 【処方せん医薬品】 【注意—医師等の処方せんにより使用すること】
注1) 注1—副作用等の発生に留意すること
注2) 注2—ErbB家族発がん因子阻害剤(EGFR阻害剤)として承認された薬剤
ERBITUX[®] DETUXIMAB
製造販売元: メルクセロノ株式会社

【処方せん医薬品】 【注意—医師等の処方せんにより使用すること】
バイエッタ[®]
エキセナチド注射剤
2型糖尿病治療剤 【薬価基準収載】
皮下注 5μg ペン300
皮下注 10μg ペン300

【処方せん医薬品】 【注意—医師等の処方せんにより使用すること】
ビデュリオン[®] 皮下注用 2mg
持続性エキセナチド注射剤
2型糖尿病治療剤 【薬価基準収載】
週一回投与

資料請求先

ブリistol・マイヤーズ株式会社

〒163-1328 東京都新宿区西新宿6-5-1

【効能又は効果】、【用法及び用量】、【警告・禁忌を含む使用上の注意】等の詳細は、添付文書をご覧ください。

2013年9月作成



骨粗鬆症治療剤(活性型ビタミンD₃製剤)
創薬 処方せん医薬品[※]

薬価基準収載

 **エディロール[®]カプセル** 0.5 μ g
0.75 μ g

EDIROL[®]

エルデカルシトールカプセル

注)注意-医師等の処方せんにより使用すること

©中外製薬株式会社登録商標

※「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等詳細については、添付文書をご参照ください。

製造販売元 (資料請求先)



中外製薬株式会社

〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1

 ロシュグループ



発売 [資料請求先]

大正富山医薬品株式会社

〒170-8635 東京都豊島区高田3-25-1

2011年4月作成



選択的 direct 作用型第Xa因子阻害剤

イグザレルト[®]錠

10mg 15mg

Xarelto[®] (リバーロキサバン錠) 薬価基準収載

処方せん医薬品 (注意-医師等の処方せんにより使用すること)

「効能・効果」、「用法・用量」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」、「用法・用量に関連する使用上の注意」等詳細については、製品添付文書をご参照ください。



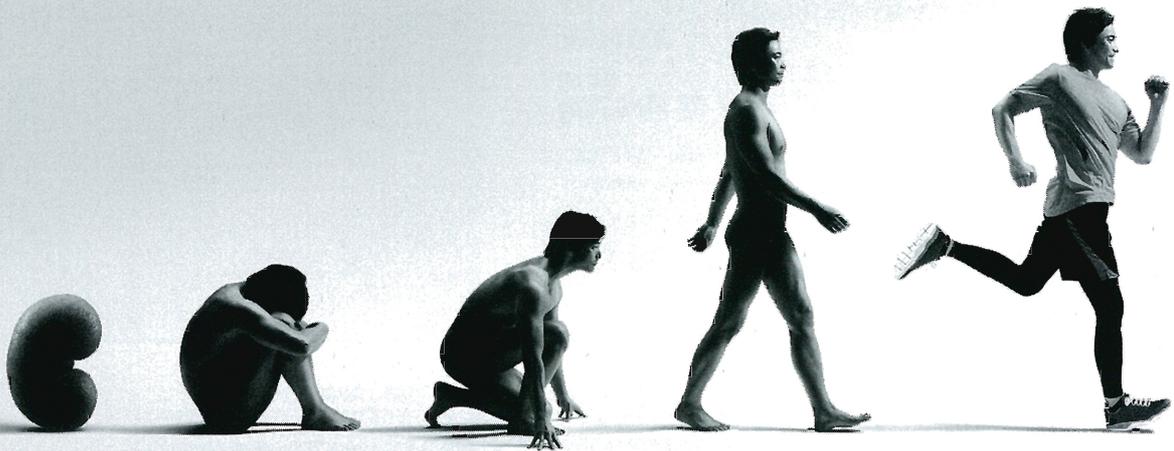
資料請求先

バイエル薬品株式会社

大阪市北区梅田2-4-9 〒530-0001

<http://www.bayer.co.jp/byl>

2013年11月作成



免疫抑制剤 (mTOR阻害剤) 薬価基準収載
サーティカン錠 0.25mg
 0.5mg
 0.75mg
創薬 処方せん医薬品 注意—医師等の処方せんにより使用すること
CERTICAN® エベロリムス錠
 サーティカンホームページ <http://www.certican.jp>

急性拒絶反応抑制剤 (抗CD25モノクローナル抗体)
シムレクト® 薬価基準収載
 注射用 20mg
生物由来製品 創薬 処方せん医薬品
注意—医師等の処方せんにより使用すること
SIMULECT® バシリキシマブ (遺伝子組換え) 注射用
 シムレクトホームページ <http://www.simulect.jp>

免疫抑制剤 (カルシニューリンインヒビター) 薬価基準収載
ネオーラル® 10・25・50mgカプセル
 内用液10%
創薬 処方せん医薬品 注意—医師等の処方せんにより使用すること
Neoral® シクロスポリン製剤
 ネオーラルホームページ <http://www.neoral.jp>

効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意等については、製品添付文書をご参照ください。

製造販売 (資料請求先)
ノバルティス ファーマ株式会社
 東京都港区西麻布4-17-30 〒106-8618

NOVARTIS DIRECT
 0120-003-293
受付時間：月～金 9:00～17:30
 (祝日及び当社休日を除く)
www.novartis.co.jp